

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	スポーツ科学 1			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	2	講義
担当教員	今井 公一			
実務経験	▼実務経験			

授業概要	
<p>パーソナルトレーナーとして20年以上現場に立ち続けている私が感じた「知識が無いと良い指導は出来ないが、知識だけでは良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を実践で活かせるように、可能な限り実践も交えながら進めていく。</p>	
到達目標	
<p>基本的な身体の動きを理解し、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。</p>	
準備学習	
<p>動きながら授業を進めますので、なるべく動きやすい服装で臨んでください</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	適宜指示します
--------	---------

授業計画		
回数	単元	内容
1	動きを診るときの3つの面	人間の動きを分析するために必要な3つの面について学ぶ
2	骨と関節の分類	骨と関節の種類を理解する
3	筋肉の種類と役割	筋肉の種類とその特徴と役割を理解する
4	トレーニングの原理、原則	トレーニングを実践するうえで必要な考え（原理・原則）を理解する
5	筋力トレーニングの種類（体幹）	体幹トレーニングの種類とその実践方法を理解する
6	筋力トレーニングの種類（上肢）	上肢の筋力トレーニングの種類とその実践方法を理解する
7	筋力トレーニングの種類（下肢）	下肢の筋力とトレーニングの種類とその実践方法を理解する
8	コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングの種類とその実践方法を理解する
9	ファンクショナルトレーニング	ファンクショナルトレーニングの考え方、実践方法を理解する
10	SAQトレーニング	SAQトレーニングの考え方、実践方法を理解する
11	スタティックストレッチ	スタティックストレッチの種類と実践方法を理解する
12	ダイナミックストレッチ	ダイナミックストレッチの種類とその実践方法を理解する
13	5大栄養素	5大栄養素の種類とその役割を理解する
14	救急法	心肺蘇生法、RICE処置について理解する
15	総括	総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		保健衛生学		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	後期	2	講義
担当教員	渡辺長			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>本授業は柔道整復師が地域社会において安全かつ適切な施術を提供するために必要となる公衆衛生学の基礎知識を体系的に学修する。健康の概念や予防医学、疫学的思考を基盤として、国民の健康を支える社会的・制度的枠組みについて理解を深める。</p>	
到達目標	
<p>公衆衛生学の基本概念および予防医学、疫学、保健医療制度、感染症対策、環境衛生について理解し、国民の健康を支える社会的仕組みを説明できる力を養う。さらに、施術現場における衛生管理や感染予防を踏まえ、柔道整復師として安全で適切な実践につなげる能力を修得する。</p>	
準備学習	
<p>教科書を確認しておくこと</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	衛生学・公衆衛生学 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
--------	----------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	公衆衛生学総論・健康概念	公衆衛生、WHO健康定義、プライマリヘルスケア、アルマ・アタ宣言
2	疫学の基礎	疫学、有病率・罹患率・死亡率・感染トライアングル、バイアス、無作為抽出
3	研究方法	横断的研究、症例対照研究、コホート研究、RCTとは
4	予防医学・地域保健	1次～3次予防、集団検診条件、PDCA、地域ニーズ把握
5	保健行政と制度	保健所、医療計画、WHO,ILO
6	母子保健	母子手帳、周産期死亡、未熟児、妊産婦死亡
7	学校保健	学校保健安全法、学校医・薬剤師、出席停止基準
8	高齢者保健・介護保険	要介護認定、被保険者、要支援・要介護サービス
9	生活習慣病・健康統計	死因順位、国民医療費、がん危険因子、糖尿病合併症
10	精神保健・労働衛生	気分障害、精神保健福祉法、業務上疾病、振動障害
11	感染症①媒介経路	感染経路、媒介昆虫、垂直感染
12	感染症②予防・ワクチン	不活化ワクチン・感染症法分類・院内感染
13	消毒・感染対策	標準予防策、手洗い、消毒薬（国試頻出テーマ）
14	環境衛生	WBGT、水道法、水質指標、室内環境
15	総括	総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		医療情報処理 1		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	2	講義
担当教員	八巻優介			
実務経験	-			

授業概要	
<p>現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。特に本講義では、レポートおよびビジネス書類の作成を学ぶ。</p>	
到達目標	
<p>コンピュータを用いて、次のように活用できるようになる。</p> <p>①レポートの作成 ②ビジネス文書の作成</p>	
準備学習	
<p>PCの設定やアップデート等、コンピュータを利用した受講の準備をしておく。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	導入(授業概要、目標)、コンピュータの基本設定の確認	
2	Wordの基礎①	(起動と終了、キーボードの使い方)
3	Wordの基礎②	(文章入力、文字入力とファイル保存)、ファイル操作とフォルダ操作 (OneDrive)
4	Wordの基礎③	(ページレイアウト、書式設定、印刷設定)
5	Wordの基礎④	(表の挿入、罫線の設定)
6	Wordの基礎のまとめ	(ビジネス文書の作成)
7	Wordの応用①	(オブジェクト操作・図形の挿入・テキストボックスの挿入)
8	Wordの応用②	(画像の挿入、表の加工)
9	Wordの応用③	(図形内の文字入力)
10	Wordの応用④	(フォーマットの活用)
11	Wordの応用⑤	(文書デザイン、段組み)
12	Wordの活用まとめ①	(ビジネス文章の作成)
13	Wordの活用まとめ②	(ビジネス文章の作成)
14	Wordの活用まとめ③	(ビジネス文章の作成)
15	Wordの活用まとめ④	(ビジネス文章の作成)

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		スポーツ科学 2		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	後期	2	講義
担当教員	今井 公一			
実務経験	▼実務経験			

授業概要	
<p>「知識だけでは良い指導は出来ないが、知識がないと良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を現場で活かせるように可能な限り実践も交えながら進めていく。</p>	
到達目標	
<p>理論だけでなく、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。トレーニングの種目、効果について説明し、実践、指導できるようになる。</p>	
準備学習	
<p>特に必要はありませんが、良いコンディションで授業に臨んでください。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	適宜指示する
--------	--------

授業計画		
回数	単元	内容
1	コンディショニングとは	コンディショニングについて学ぶ
2	パートナーストレッチの効果	パートナーストレッチの効果について学ぶ
3	パートナーストレッチの基本	パートナーストレッチの基本テクニックについて学ぶ
4	下肢のパートナーストレッチ	下肢のパートナーストレッチの種類と実践について学ぶ
5	上肢のパートナーストレッチ	上肢のパートナーストレッチの種類と実践について学ぶ
6	目的別パートナーストレッチ 1	目的に応じたストレッチについて学ぶ
7	目的別パートナーストレッチ 2	目的に応じたストレッチについて学ぶ
8	姿勢評価	姿勢評価の仕方について学ぶ
9	動作評価	動作評価の仕方について学ぶ
10	コアスタビリティ	コアスタビリティについて学び実践する
11	ムーブメントエクササイズ	ムーブメントエクササイズについて学び実践する
12	ダイナミックコントロール	ダイナミックコントロールについて学び実践する
13	心肺蘇生法	心肺蘇生法について学び実践する
14	安全管理	安全管理について学ぶ
15	総括	総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		医療情報処理 2		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	2	講義
担当教員	八巻優介			
実務経験	-			

授業概要	
<p>現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。特に本講義では、データ処理と活用を学ぶ。</p>	
到達目標	
<p>コンピュータを用いて、次のように活用できるようになる。</p> <p>①データ処理 ②データ活用</p>	
準備学習	
<p>PCの設定やアップデート等、コンピュータを利用した受講の準備をしておく。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	導入(授業概要、目標)、コンピュータの基本設定の確認	
2	Excelの基礎①	(起動と終了、セルとシート・データの入力と削除)
3	Excelの基礎②	(データの移動・コピー、数式の入力、基本的な表計算)
4	Excelの基礎③	(関数の取り扱い、書式設定、オートフィル)
5	Excelの基礎④	(関数の活用とデータの集計)
6	Excelの基礎⑤	(基礎のまとめ)
7	Excelの応用①	(データ検索・置換の活用)
8	Excelの応用②	(並び替え・フィルター機能の活用)
9	Excelの応用③	(サンプルデータを利用した集計作業)
10	Excelの応用④	(サンプルデータを利用した集計作業)
11	Excelの応用⑤	(総合演習)
12	Excelの応用⑥	(総合演習)
13	Excelの応用⑦	(総合演習)
14	Excelの応用⑧	(総合演習)
15	Excelの実習	(総合演習)



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	リハビリテーション実践			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	後期	2	講義
担当教員	渡辺長			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>超高齢社会におけるリハビリテーション医学の意義を理解し、身体・精神・社会面を含む全人的回復の概念を学ぶ。柔道整復師に求められる基礎知識と役割を体系的に修得し、多職種連携や地域におけるリハビリテーションの在り方について理解を深める。</p>
到達目標
<p>リハビリテーション医学の視点から、高齢化に伴う日本社会・経済の変化と医療専門職の役割を理解する。リハビリテーションの本質的理念に基づきアプローチできる力を養い、柔道整復師に求められる知識・概念を体系的に修得する。</p>
準備学習
<p>教科書を確認しておくこと</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>

使用テキスト	リハビリテーション医学、全国柔道整復学校協会、南江堂
--------	----------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	リハビリテーションの理念とモデル	ICFとICIDH、WHO
2	障害の捉え方	ICFとICIDH、WHO、姿勢と歩行周期
3	病期とリハビリテーションの役割	各病期におけるリハビリテーションの役割、チーム医療とは
4	筋力	筋力増強訓練と筋収縮様式
5	関節可動域	可動域訓練、基本軸と移動軸と参考可動域
6	物理療法	物理療法的アプローチの適応と禁忌
7	脳卒中の基礎	病態と分類、片麻痺のリハビリテーション
8	脳卒中のリハビリテーション	高次脳機能障害と失語
9	義肢装具	切断の種類と義肢の適応
10	義肢装具	装具の適応と種類
11	脊髄損傷	脊髄損傷の基礎、髄節レベルとADL
12	小児疾患	脳性まひの特徴とリハビリテーション
13	呼吸・循環器	呼吸・循環器疾患のリハビリテーション
14	転倒と大骸骨頸部骨折	整形外科テスト、大腿骨警部骨折、肩関節周囲炎
15	総括	総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	解剖学 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	2	講義
担当教員	平賀 篤			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要
解剖学が医療従事者になるための学習全体の中でどのような位置づけにあるかを説明する。 そのうえで生命の基本構造である細胞・組織・器官の形態的特徴から始め、無意識下で生命を維持するための内臓である心臓、血管系、呼吸器系、消化器系について、位置、形態と構造の特徴、血管分布などについて理解を進める。
到達目標
解剖学の必要性が理解できる。 臓器や器官の構造がイメージできる。 組織間の相互的役割や関係性を説明できる。
準備学習
・教科書の読解: 教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。 ・関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修、解剖学 改訂第2版、医歯薬出版株式会社
--------	----------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	人体解剖学概要1	解剖学の歴史・分類、細胞の構造と機能
2	人体解剖学概要2	組織と発生
3	脈管系1	循環経路と血管の種類、心臓の構造
4	脈管系2	動脈系1：大動脈、頭頸部、胸腔、腹腔
5	脈管系3	動脈系2：骨盤部、上肢、下肢 静脈系1：大静脈、門脈、上肢
6	脈管系4	静脈系2：骨盤、胎児循環、リンパ系
7	呼吸器系1	呼吸器の働きと構成、上気道
8	呼吸器系2	下気道と肺
9	消化器系1	消化器の働きと構成、咽頭と食道
10	消化器系2	胃と腸
11	消化器系3	肝臓と胆道
12	消化器系4	脾臓と腹膜
13	総括1	全体的な復習 1
14	総括2	全体的な復習 2
15	総括3	全体的な復習 3

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	解剖学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	3	講義
担当教員	平賀 篤			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要	
解剖学Ⅰに引き続き人体の各組織についての位置や形態、構造の特徴についての理解を深める。解剖学Ⅰでまだ触れていない内臓系、内分泌系、中枢・末梢神経系、生殖器系を中心に学び、人体の構造を網羅することが可能となる。	
到達目標	
臓器や器官の位置と構造が理解できる。 組織間の相互的役割や関係性を説明できる。	
準備学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の読解: 教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。</li> <li>関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。</li> </ul>	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修. 解剖学 改訂第2版. 医歯薬出版株式会社
--------	------------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	脈管系の復習	心臓、動脈、静脈、リンパ管の整理
2	消化器・呼吸器系の復習	口～大腸と消化に関わる臓器、呼吸に関する整理
3	泌尿器系	腎臓～尿道
4	内分泌系1	内分泌の概要と機能、精巣と卵巣
5	内分泌系2	具体的な内分泌器
6	神経系1	神経系の基礎と特徴、神経組織
7	神経系2	中枢神経系の区分と脳室、脳脊髄液
8	神経系3	大脳～脳幹
9	神経系4	脊髄
10	神経系5	脳神経
11	神経系6	脊髄神経と自律神経系
12	感覚器系1	感覚の概要と表在感覚
13	感覚器系2	深部感覚、視覚
14	感覚器系3	聴覚、味覚
15	生殖器系1	生殖器の概要と男性生殖器
16	生殖器系2	女性生殖器
17	体表解剖1	体表に関わる区分と骨格系
18	体表解剖2	筋系1
19	体表解剖3	筋系2
20	体表解剖4	脈管系と感覚系



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	生理学 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	2	講義
担当教員	石野 竜平			
実務経験	歯科医院等において、歯科医師としての実務経験を有する。			

授業概要
生理学の総論、血液、循環、呼吸、消化吸収
到達目標
柔道整復師国家試験に必要なレベルの生理学の理解
準備学習
授業の復習を必ず行う
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版
--------	------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	生理学とは? ホメオスタシ	生理学で学ぶこと、体液
2	血液 1	血液の組成、血漿の成分と役割、血液細胞
3	血液 2	凝固、血液型、
4	血液 3	免疫
5	循環1	体循環、肺循環、心筋の特徴
6	循環2	心電図、心周期
7	循環 3	血管の種類と役割、血圧調節
8	呼吸 1	呼吸の仕組み、スパイログラム
9	呼吸 2	酸素解離曲線、呼吸調節
10	消化と吸収 1	消化器の構造、働き
11	消化と吸収 2	消化の調節、消化酵素
12	消化と吸収3	肝臓、膵臓の働き
13	消化と吸収 4	消化ホルモン
14	総復習	生理学I全体について復習 1
15	総括	生理学I全体について復習 2

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校<柔道整復学科>

科目名	生理学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	3	講義
担当教員	石野 竜平			
実務経験	歯科医院等において、歯科医師としての実務経験を有する。			

授業概要	
腎臓、内分泌、生殖、骨、神経、感覚器の生理学の講義	
到達目標	
柔道整復師国家試験に必要なレベルの生理学の理解	
準備学習	
授業の復習を必ず行う	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版
--------	------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	尿の生成 1	腎臓の役割、ネフロン、糸球体での濾
2	尿の生成 2	尿細管の再吸収・分泌、排尿、尿量調節
3	内分泌 1	内分泌のしくみ、ホルモンの特性
4	内分泌 2	視床下部、下垂体、松果体、上皮小体
5	内分泌 3	副腎、膵臓、精巣、卵巣
6	生殖 1	生殖器の分化、男性生殖器系
7	生殖 2	女性生殖器、妊娠と分娩
8	骨	骨の構造・成長・リモデリング、血中カルシウム調節
9	体液	体液量調節、酸塩基平衡
10	神経 1	神経系の特徴、ニューロン、膜電位
11	神経 2	中枢神経系の働き、高次機能
12	神経 3	自律神経系
13	神経 4	体性神経系、伝導路
14	筋肉 1	筋肉の種類、骨格筋の特徴
15	筋肉 2	筋収縮・弛緩のエネルギー、筋線維の種類
16	運動 1	運動の調節、伝導路、運動反射
17	運動 2	誘発筋電図、脳幹による運動調節、高次運動機能調節
18	感覚 1	感覚機能の特性、視覚
19	感覚 2	その他の特殊感覚、体性感覚
20	体温	体温の分布・調節



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	人体の構造と機能の変化			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	後期	2	講義
担当教員	石野 竜平			
実務経験	歯科医院等において、歯科医師としての実務経験を有する。			

授業概要
組織、運動器、感覚器、循環器、消化器、免疫等における高齢者の生理学的特徴
到達目標
柔道整復師国家試験に必要なレベルの生理学の理解
準備学習
授業の復習を必ず行う
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版
--------	------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	高齢者の生理学的特徴1	細胞・組織の加齢現象, 神経系の変化
2	高齢者の生理学的特徴2	運動器系の変化(1)骨格筋
3	高齢者の生理学的特徴3	運動器系の変化(2) 骨
4	高齢者の生理学的特徴4	感覚器系の変化(1)視覚
5	高齢者の生理学的特徴5	感覚器系の変化(2) 聴覚・前庭感覚
6	高齢者の生理学的特徴6	循環器系・呼吸器系の変化
7	高齢者の生理学的特徴7	消化器系の変化・歯周病
8	高齢者の生理学的特徴8	内分泌系・免疫系の変化
9	高齢者に多い疾患・障害	フレイル・認知症, 加齢と運動
10	発育・発達と生理学的変化 1	身長・体重・骨格筋の成長
11	発育・発達と生理学的変化 2	発生と催奇形性
12	薬理学の基礎	薬の種類と働き
13	復習 1	高齢者の生理学的特徴について復習
14	復習 2	発育・発達・発生および薬理学について復習
15	総括	1 回から 1 4 回までの講義内容についての確認

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	運動学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	3	講義
担当教員	高橋将			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
運動に関する身体の構造と機能の関係や原理・理論を理解し、運動学の基礎知識を身につけることを目的とする。これらの内容(多くが前半にある)は予習を、後半の内容は復習をしっかりと行い、国家試験の過去の問題演習などを通じて、各章の押さえるべき基本的な内容を説明できるレベルになることを期待する。
到達目標
教科書で紹介されている運動学の基礎知識(身体運動と力学、運動器の構造と理解、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習等)を理解すること。また、運動学の知識を応用させることができるようになることを目標とする。
準備学習
初めて習う内容は予習が難しいと思われるので、まずは復習をしっかりと行ってほしい。また、これらを履修した際に関連科目も併せて復習することで理解度が増し、理解が深まることを期待する。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	運動学改訂第3版(医歯薬出版株式会社) 講義内容をまとめたプリントを配布するほか、自学の際に参考となる資料を講義中に適宜紹介する。
--------	---

		授業計画	
回数	単元	内容	
1	運動学の目的、運動の表し方	オリエンテーションおよび、運動学の目的や表し方について	
2	身体運動と力学:前半(身体運動に関する力)	力のつり合い、モーメント等について	
3	身体運動と力学:後半(運動の法則)	運動野法則、力積、運動量保存の法則について	
4	運動器の構造と機能	骨の基本構造やホルモンについて学ぶ	
5	神経の構造と機能	関節・骨格筋の構造、筋の収縮、自立神経、中枢神経系、脳について	
6	運動感覚	様々な感覚について	
7	反射と随意運動:前半(反射)	反応、反射、脊髄反射、様々な反射について	
8	反射と随意運動:後半(連合運動と共同運動以降)	連合・共同。随意運動、運動のプログラム等について	
9	姿勢:後半(立位姿勢の制御以降)	姿勢、肢位、体位、重心等について	
10	歩行:前半(歩行の運動力学的分析まで)	抗重力筋、重心動揺、機能肢位について	
11	歩行:後半	歩行、歩行周期、歩行率、重心の移動等について	
12	運動発達:前半(全身運動まで)	歩行の運動学的分析、歩行と筋活動の関係について	
13	上肢関節機能と筋①	上肢の骨格と、四肢・体幹の運動について	
14	上肢関節機能と筋②	肩周囲の骨格と運動、肩甲骨と脊柱・脊柱と肋骨の関係性	
15	上肢関節機能と筋③	肘関節周囲の骨格と運動、前腕の運動について	
16	上肢関節機能と筋④	手関節と手の運動、手関節と指の運動	
17	下肢関節機能と筋①	骨盤の形態、骨盤周囲の筋肉、股関節の運動、	
18	下肢関節機能と筋②	膝関節の骨格と運動、膝関節周囲の靭帯・軟部組織、	
19	下肢関節機能と筋③	膝関節の骨格と運動、足のアーチ、機構、足部の形態	
20	体幹関節機能と筋①	体幹と脊柱の運動、脊柱の関節、脊柱周囲の筋	





## 令和8年度 シラバス

科目名	一般臨床医学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	3	講義
担当教員	平賀篤、渡邊修司			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

### 授業概要

柔道整復師を目指す上で必要となる診察の基本と内科疾患や神経疾患、運動器疾患など多彩な疾患概念を学び、将来臨床現場で注意を払わなければならない症状や所見の理解を深める。

### 到達目標

診察から得られる兆候と病態を関連付けることができる。検査異常と疾患を関連付けることができる。内部障害・神経障害・感染症など主な疾患を理解できる。

### 準備学習

- ・教科書の読解: 教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。
- ・関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。

### 成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。  
定期試験の点数を評点とし、評価とする。

### 使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修。一般臨床医学 改訂第3版。南江堂

## アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

### 授業計画

回数	単元	内容
1	診察-医療面接-視診	診察の概念理解と必要な診察技能である医療面接と視診の注意点把握
2	打診・聴診・触診	診察に必要な診察技能である打診や聴診、触診の部位別理解
3	生命兆候	体温や血圧、呼吸の見方
4	感覚検査・反射検査	感覚検査と反射検査の種類の理解と実施方法
5	代表的な臨床症状：発熱・出血傾向	発熱と出血の病態生理と具体例
6	代表的な臨床症状：リンパ節腫脹-やせ	代表的症状であるリンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼや肥満などの病態生理
7	検査法：生理機能検査	心電図、脳波、筋電図検査の基本と臨床応用
8	検体検査、前半まとめ	検体の概念と臨床応用
9	呼吸器疾患	呼吸器に関する主要徴候と具体的疾患
10	循環器疾患	循環器に関する主要徴候と具体的疾患
11	消化器疾患総論	消化器に関する主要徴候とそのメカニズム
12	消化器疾患各論	消化器に関する具体的疾患
13	代謝疾患	呼吸器に関する主要徴候と具体的疾患
14	内分泌疾患	内分泌疾患に関する主要徴候と具体的疾患
15	血液・造血器疾患	血液・造血器に関する主要徴候と具体的疾患
16	腎・尿路疾患総論	腎・尿路疾患に関する主要徴候とそのメカニズム
17	腎・尿路疾患各論	腎・尿路疾患に関する具体的疾患
18	神経疾患総論	神経疾患に関する主要徴候とそのメカニズム
19	神経疾患各論	神経疾患に関する具体的疾患
20	感染症総論	感染症に関する主要徴候とそのメカニズム











令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	衛生学・公衆衛生学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	3	講義
担当教員	平賀 篤			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要	
我が国の健康に関する課題は、1) 超高齢社会・少子高齢化社会と付随する生活習慣病、2) 公害・地球環境、3) 産業保健、4) 時代に対応した国際保健 など多岐にわたる。公衆衛生の基本的な知識と考え方を理解し、我が国の実際を理解する。	
到達目標	
人間と環境との関係性を現代科学的に理解できる。 「衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動」、「健康の概念」、「疾病予防と健康管理」、「感染症の予防」などを理解し説明できるようになる。	
準備学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の読解: 教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。</li> <li>関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。</li> </ul>	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修. 衛生学・公衆衛生学 改訂第6版. 南江堂
--------	------------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	科目概要の説明と公衆衛生の理解
2	健康の概念	日本における健康の概念と指標、動態統計
3	疾病予防と健康管理	疾病と危険因子、予防に関する水準と対策
4	感染症予防①	感染症の種類とメカニズム
5	感染症予防②	感染症予防の原則と具体的対策
6	消毒	消毒のメカニズムと実際
7	環境衛生①	環境問題の背景と物理的環境要因
8	環境衛生②	科学的・生物的環境要因
9	公害と地球環境	公害の歴史と現在の地球の状況
10	生活環境	水、衣服、住居
11	食品衛生活動	食品衛生と栄養問題
12	母子保健	母子に関わる問題と行政対応
13	学校保健	学校に関わる問題と行政対応
14	産業保健①	産業保健の考え方と職業病
15	産業保健②	産業分野の予防と対策
16	成人保健と高齢者保健	成人と高齢者の健康変遷
17	精神保健	精神に関わる問題と世論の変遷
18	地域保健と国際保健	衛生学の国際的な動向
19	衛生行政と保健医療制度①	衛生に関する行政動向
20	衛生行政と保健医療制度②	保健医療制度の変遷と現状



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	関係法規			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期	2	講義
担当教員	中神太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>柔道整復師という仕事をしていく上で、そのルールである柔道整復師法を知っておくことは当然のことである。また、医療人として柔道整復師法に限らず医療法、医師法、その他関係法規の知識も必要である。本授業ではこれらの法律に関して、国家試験に出題される項目を中心に教科書、配布資料を使用し説明していく。</p>
到達目標
<p>法の体系を学び、そこで出てくる様々な用語の意味を理解し、柔道整復師法およびその他関係法規について内容を理解し、そのうえで柔道整復師の業について適法に行うことができることを目的とする。また、国家試験過去問については必修科目であるための正答率100%を目指す。</p>
準備学習
<p>授業で勉強したことの復習もかねて、定期試験前に自己学習できるようなノートづくりを心掛けたい</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 関係法規 2026年度版
--------	---------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	序論	法の意義
2	序論	法の体系～柔道整復に関する法規
3	序論	患者の権利～リスクマネジメント
4	柔道整復師法	柔道整復師法の目的～免許
5	柔道整復師法	免許～柔道整復師国家試験
6	柔道整復師法	業務
7	柔道整復師法	施術所～広告
8	柔道整復師法	復習
9	関係法規	医療従事者の資格法
10	関係法規	医療法
11	関係法規	社会福祉法規～社会保険関係法規
12	関係法規	個人情報の保護に関する法律
13	総復習	総復習
14	総復習	総復習
15	総復習	解説



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	柔道 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	1	演習
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>柔道の基本理念である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解し、礼法・受身・基本姿勢・基本投技を通して、安全で合理的な身体操作能力を養う。 柔道整復師として必要な姿勢制御能力、転倒対応能力、他者との適切な距離感を実践的に習得する。</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい礼法を理解し実践できる</li> <li>各種受身を安全に実施できる</li> <li>基本姿勢・組み方・進退動作を説明および実践できる</li> <li>基本投技の構造（崩し・作り・掛け）を理解できる</li> <li>残心の意義を説明できる</li> </ul>
準備学習
<p>準備運動・授業前後での投技や受身の進捗確認</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>

使用テキスト	柔道着
--------	-----

授業計画		
回数	単元	内容
1	科目説明・柔道理念	柔道の成り立ちや理念である「精力善用」「自他共栄」を理解し、授業の目的や評価方法を説明する。
2	礼法（立礼・坐礼・姿勢）	柔道における礼儀作法を学び、立礼や坐礼、正しい姿勢を身につける。
3	受身①（後受身・横受身）	安全に倒れるための基本技術として後受身と横受身を習得する。
4	受身②（前受身・前回受身）	前受身や前回受身の動作を学び、転倒時の安全確保と身体操作を理解する。
5	基本姿勢（自然体・自護体）	柔道の基本姿勢である自然体と自護体の特徴と使い分けを学ぶ。
6	組み方・進退動作	相手との組み方と前後左右の進退動作を練習し、基本的な動きを身につける。
7	体捌きと崩し	体捌きによる位置取りと、相手のバランスを崩す基本原理を学ぶ。
8	浮落①（かけ方）	浮落の基本動作と投げのかけ方を段階的に習得する。
9	浮落②（崩し・残心）	崩しから投げ、残心までの一連の動作を理解し、技の完成度を高める。
10	背負投①（かけ方）	背負投の基本動作と身体の使い方を学び、投げ技の基本を理解する。
11	背負投②（崩し・残心）	崩しから投げまでの流れを練習し、投げた後の残心を意識する。
12	技の連絡動作	複数の技を連続して行う連絡技の基本を理解する。
13	約束稽古	あらかじめ決められた動きで技を掛け合い、技術の正確性を高める。
14	応用動作	基本技を応用した動作を練習し、状況に応じた技の使い方を学ぶ。
15	技術到達度確認	これまで学んだ受身や基本技の理解度と実技能力を確認する。

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校<柔道整復学科>

科目名		柔道Ⅱ		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	後期	1	演習
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>投技および固技の応用技術を学び、連絡技・約束乱取りを通して実践的スキルを高める。 技術原理を理解し、解剖学的構造との関連を意識した合理的な身体操作能力を養成する。</p>	
到達目標	
<p>主要投技を正確に実施できる 連絡技・変化技を説明できる 固技を安定して保持できる 約束乱取りを安全に実施できる 技術と身体構造を関連づけられる</p>	
準備学習	
<p>崩し・作り・掛けの整理 ・技術構造の図解 ・固技理論の整理 ・解剖学との関連整理</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	柔道着
--------	-----

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や到達目標を説明し、柔道Ⅰで学んだ内容を振り返る。
2	基礎技術の確認	受身や基本姿勢、組み方などの基礎技術を再確認する。
3	肩車①	肩車の基本的なかけ方と身体操作を学ぶ。
4	肩車②	崩しやタイミングを意識した肩車の実践練習を行う。
5	浮腰①	浮腰の基本動作と腰の使い方を理解する。
6	浮腰②	崩しと体重移動を意識した浮腰の実践練習を行う。
7	払腰①	払腰の基本動作と脚の使い方を学ぶ。
8	払腰②	崩しから投げまでの一連の動作を反復練習する。
9	釣込腰①	釣込腰の基本動作と上体の使い方を習得する。
10	釣込腰②	崩しと腰の回転を意識した投げ技の完成度を高める。
11	送足払①	送足払の基本動作とタイミングを理解する。
12	送足払②	実際の動きの中で足払いを行う練習を行う。
13	支釣込足①	支釣込足の基本技術と崩しの方法を学ぶ。
14	送足払②	足技の応用として送足払の実践的練習を行う。
15	内股	内股の基本動作と崩しの技術を学び、投げ技の完成度を高める。

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	柔道Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	1	講義
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>実践的乱取り、試合理論、審判規則、指導法を学び、技術の言語化能力と安全管理能力を高める。 将来的な指導者・教育者としての資質も養う。</p>
到達目標
<p>実戦的乱取りを安全に実施できる 試合規則を理解し説明できる 指導計画を作成できる 技術を言語化できる 外傷予防の観点を理解できる</p>
準備学習
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試合規則整理</li> <li>・技術分析ノート作成</li> <li>・国家試験出題基準との関連確認</li> </ul>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>

使用テキスト	柔道着・認定実技審査実施要領
--------	----------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	柔道理念の再確認	柔道の理念を再確認し、競技としての柔道の価値を理解する。
2	審判規則①	試合における基本的な審判規則を学ぶ。
3	審判規則②	反則や得点の判定など、実際の試合運営について理解する。
4	試合理論	試合における戦術や試合展開の考え方を学ぶ。
5	乱取り①	自由練習形式で技を掛け合い、実践的な動きを身につける。
6	乱取り②	乱取りを通して技術と判断力を高める。
7	攻撃構築	試合で有効な攻撃の組み立て方を学ぶ。
8	防御理論	相手の技を防ぐための防御方法を理解する。
9	返し技	相手の攻撃を利用した返し技を練習する。
10	体力要素と競技特性	柔道に必要な体力要素と競技特性について学ぶ。
11	指導法①	柔道指導の基本方法と安全な指導のポイントを理解する。
12	指導法②	指導場面を想定した実践的な指導方法を学ぶ。
13	約束乱取・形の演習①	約束乱取や形の基本動作を確認する。
14	約束乱取・形の演習②	形の動作を反復練習し、技術の精度を高める。
15	柔道を行う安全管理	練習や試合における安全管理の重要性を理解する。
16	柔道を行う際の外傷予防	柔道で起こりやすい外傷と予防方法を学ぶ。
17	認定実技審査に向けての形全般の練習	認定実技審査に向けて形の練習を行う。
18	認定実技審査に向けての約束乱取の練習	約束乱取の動作を確認し、審査に備える。
19	認定実技審査に向けての受身の練習	安全に技を受けるための受身を再確認する。
20	通しでの練習	これまで学んだ内容を通して実践的に練習する。



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		基礎柔道整復学 I		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	2	講義
担当教員	鈴木忠慶			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>これより利用するシステムを用いたICT学習の理解を深め、リメディアル教育を基本とする。          今後3年間続く医療従事教育を受ける準備（基礎用語、教科が担う学習の意義の理解）を行う。</p>	
到達目標	
<p>校内システムを利用しオンデマンド学習について能動的学習姿勢を身につけることができる。柔道整復学・解剖学・生理学について基礎に触れ、医療従事者としての持続的学習姿勢を身につける事ができる。</p>	
準備学習	
<p>定期試験は「試験資料」のみから出題されます。学習時に配られる資料について、繰り返し学習の学習習慣を身につけてください。専門用語を用いて質問できる口語習慣を意識的に身につけてください。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。          定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編・解剖学・生理学
--------	------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	自己紹介・オンデマンド授業の受講方法および出席について
2	専門学校とは	専門学校のカリキュラムについて理解する。
3	柔道整復師とは	柔道整復師と職業について理解し学習についての姿勢を作る。
4	専門用語とは	専門用語を理解し、専門用語の必要生を使って会話を試みる。
5	体の構造を知る 1	骨の名称を通し専門用語に触れ、文字から構造を理解する。
6	体の機能を知る 1	骨の機能を通し専門用語に触れ、文字から機能・役割を理解する。
7	体の構造を知る 2	筋の名称を通し専門用語に触れ、文字から構造を理解する。
8	体の機能を知る 2	筋の機能を通し専門用語に触れ、文字から機能・役割を理解する。
9	体の構造を知る 3	内臓の名称を通し専門用語に触れ、文字から構造を理解する。
10	体の機能を知る 3	内臓の機能を通し専門用語に触れ、文字から機能・役割を理解する。
11	体の構造を知る 4	血管の名称を通し専門用語に触れ、文字から構造を理解する。
12	体の機能を知る 4	血管の機能を通し専門用語に触れ、文字から機能・役割を理解する。
13	体の構造を知る 5	神経の名称を通し専門用語に触れ、文字から構造を理解する。
14	体の機能を知る 5	神経の機能を通し専門用語に触れ、文字から機能・役割を理解する。
15	体の構造を知る 6	解剖学専門用語のまとめ。
16	体の機能を知る 6	生理学専門用語のまとめ。
17	柔道整復学の基礎 1 -1	骨折（分類・症状）の内容を通し施術を行う上での学習姿勢を理解する。
18	柔道整復学の基礎 1 -2	骨折（合併症）の内容を通し施術を行う上での学習姿勢を理解する。
19	柔道整復学の基礎 2	脱臼・軟部組織損傷の内容を通し施術を行う上での学習姿勢を理解する。
20	柔道整復学の基礎 4	柔道整復学の基礎のまとめ

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	中神太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>総論における捻挫脱臼(p12-19,p46-59)、筋の損傷 (p64-p70) についての損傷状態について理解するほか、鎖骨骨折からモンテギア骨折の各論について理論編(p174-214)実技編 (p62-146) を用いて損傷の発生機序から治癒または後遺症においてまでを学ぶ。</p>	
到達目標	
<p>柔道整復学の捻挫・脱臼における総論および、上肢骨折についてそれぞれ、概要、発生機序、症状、合併症、整復、固定を説明することができる。 また、あらゆる出題形式の国家試験でも解けるようなレベルを目指す。</p>	
準備学習	
<p>授業で勉強したことの復習もかねて、定期試験前に自己学習できるようなノートづくりを心掛けたい</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス 総論	人体に加わる力
2	総論	損傷時に加わる力 痛みの基礎
3	総論 各組織の損傷	関節の損傷 (捻挫-脱臼) A-B
4	総論 各組織の損傷	関節の損傷 (捻挫-脱臼) C-D
5	総論 各組織の損傷	関節の損傷 (捻挫-脱臼) E-F
6	総論 各組織の損傷	筋の損傷A-C
7	総論 各組織の損傷	筋の損傷D-F
8	各論 上肢骨折	鎖骨骨折1
9	各論 上肢骨折	鎖骨骨折2
10	各論 上肢骨折	鎖骨骨折3
11	各論 上肢骨折	肩甲骨骨折1
12	各論 上肢骨折	肩甲骨骨折2
13	各論 上肢骨折	上腕骨近位骨折1
14	各論 上肢骨折	上腕骨近位骨折2
15	各論 上肢骨折	上腕骨外科頸骨折1
16	各論 上肢骨折	上腕骨外科頸骨折2
17	各論 上肢骨折	上腕骨外科頸骨折3
18	総復習	総復習 (総論~肩甲骨骨折)
19	総復習	総復習 (上腕骨近位骨折~上腕骨外科頸骨折)
20	各論 上肢骨折	上腕骨骨幹部骨折1



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	三野勝大			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>総論における骨折（p20～46）の損傷状態について理解するほか、橈・尺両骨骨幹部骨折から末節骨骨折の各論（p214～244）について、損傷の発生機序・症状・合併症・固定について学ぶ。</p>	
到達目標	
<p>柔道整復学の総論、および上肢骨折について授業範囲を説明することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総論については骨折の分類・症状・合併症を理解して説明できる。</li> <li>・上肢骨折については、発生機序・特徴・症状・合併症・治療法を理解して説明できる。</li> </ul>	
準備学習	
<p>時間外の学習では、毎回の授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」を反復する時間を個別でもうけることが望まれる。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	<p>全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版          全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版</p>
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	【骨の損傷】①	A.骨の形態と機能
2	【骨の損傷】②	B.骨損傷の概説
3	【骨の損傷】③	C.骨折の分類 1
4	【骨の損傷】④	C.骨折の分類 2
5	【骨の損傷】⑤	D.骨折の損傷（骨折の1.局所症状・2.全身症状）
6	【骨の損傷】⑥	D.骨折の損傷（骨折の1.局所症状・2.全身症状）
7	【骨の損傷】⑦	E.骨折の合併症（1.併発症・2.続発症）
8	【骨の損傷】⑧	E.骨折の合併症（1.併発症・2.続発症）
9	【骨の損傷】⑨	E.骨折の合併症（3.後遺症）
10	【骨の損傷】⑩	E.骨折の合併症（3.後遺症）
11	【骨の損傷】⑪	F.小児の骨折・高齢者骨折（1.小児骨折）
12	【骨の損傷】⑫	F.小児の骨折・高齢者骨折（2.高齢者骨折）
13	【骨の損傷】⑬	G.骨折の癒合日数 H.骨折の治癒経過,
14	【骨の損傷】⑭	I.骨折の予後
15	【骨の損傷】⑮	J.骨折の治癒に影響を与える因子
16	【G. 前腕骨骨幹部骨折】①	5.橈・尺両骨骨幹部骨折1
17	【G. 前腕骨骨幹部骨折】②	5.橈・尺両骨骨幹部骨折2
18	【復習】	(骨損傷)
19	【復習】	(骨損傷)
20	【H.前腕遠位端部骨折】①	1.橈骨遠位端部骨折（コーレス1）



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復学Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
教科書で学び、プリントやノートにまとめて学習成果を国家試験過去問題にて確認する。「自分専用にカスタマイズされた参考書、ノートを作る」ことを目標とする。	
到達目標	
下肢の損傷について、①分類②発生機序とメカニズム③治療法④合併症を患者さんを想定して説明できるようになる。また、該当部位の①骨②筋（起始・停止・作用・神経支配）を口述することができるようになる。	
準備学習	
①当該範囲の解剖学（骨・筋・神経）の復習 ②その日に行った教科書の読み込みを促し、自宅学習習慣をつける。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	「解剖学」南江堂 「柔道整復学理論編」第7版 南江堂
--------	-------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション（授業の進め方・評価方法）	授業の目的、進め方、評価方法について説明する。
2	腱損傷 構造と機能	腱の解剖学的構造と役割を理解する
3	腱損傷 発生機序と病態	腱損傷が起こる原因や病態生理について学ぶ。
4	腱損傷の分類（完全・部分・）	完全断裂や部分断裂などの分類を理解する。
5	症状・徒手検査・画像所見	臨床症状や徒手検査、画像診断の特徴を学ぶ。
6	治癒機序と保存療法の適応判断	腱の治癒過程と保存療法の適応について理解する。
7	神経の構造と機能	神経の基本構造と役割を学ぶ。
8	神経損傷の病態と分類	神経損傷の種類と病態を理解する。
9	神経損傷の症状と鑑別	神経損傷による症状と他疾患との鑑別方法を学ぶ
10	回復機序と合併症	神経の回復過程と起こりうる合併症を理解する。
11	骨盤の機能と安定性	骨盤の構造と身体支持における役割を学ぶ。
12	腸骨・恥骨・坐骨単独骨折	骨盤を構成する各骨の単独骨折の特徴を理解する。
13	仙骨・尾骨単独骨折	仙骨・尾骨骨折の原因や症状を学ぶ。
14	裂離骨折（上・下前腸骨棘）	筋の牽引によって生じる裂離骨折について理解する。
15	骨盤骨骨折と脂肪塞栓症	骨盤骨折に伴う合併症について学ぶ。
16	大腿骨骨頭骨折	骨頭骨折の発生機序と臨床症状を理解する。
17	大腿骨頸部骨折	高齢者に多い骨折の特徴と治療方針を学ぶ。
18	転子部骨折	転子部骨折の発生機序と臨床的特徴を理解する。
19	Pauwels分類と血流障害	Pauwels分類と血流障害
20	発生機序と筋牽引による転位	骨折時に生じる筋の牽引による骨片転位を理解する。



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復学Ⅴ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	5	講義
担当教員	諸星亮			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
各関節の脱臼において、分類を理解し、発生機序、分類、症状、整復方法、および固定方法について学ぶ。また、それに伴う合併症や、脱臼後の予後について学ぶ。さらに、国家試験対策及び臨床における評価・判断についての知識を身につける。
到達目標
各脱臼の分類、発生機序、症状、整復法、固定法、合併症、予後について、理解する。
準備学習
授業前の準備：授業範囲の関節について、解剖学教科書などによりその関節構造について事前に復習する。 授業後の復習：授業内容の反復学習。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	柔道整復学理論編 南江堂 柔道整復学実技編 南江堂
--------	------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価等について、脱臼各論への導入
2	脱臼の総論	脱臼の総論振り返り
3	脱臼の総論	脱臼の総論振り返り
4	頭部、顔面の脱臼	顎関節脱臼、頸椎脱臼、胸椎、腰椎の脱臼について
5	上肢の脱臼①	鎖骨脱臼について
6	上肢の脱臼②	肩関節脱臼（前方脱臼）について
7	上肢の脱臼③	肩関節脱臼（反復性脱臼）について
8	上肢の脱臼④	肩関節脱臼（後方脱臼）について
9	上肢の脱臼⑤	肩関節脱臼（下方脱臼、上方脱臼）について
10	上肢の脱臼⑥	顎関節、頸椎、胸椎、腰椎、鎖骨、肩関節脱臼の振り返り
11	まとめ	到達度評価（顎関節、頸椎、胸椎、腰椎、鎖骨、肩関節に関する）
12	まとめ	到達度評価の振り返り、解説
13	上肢の脱臼⑦	肘関節脱臼について
14	上肢の脱臼⑧	肘関節脱臼、肘内障について
15	上肢の脱臼⑨	肘関節脱臼について
16	上肢の脱臼⑩	手関節脱臼について
17	上肢の脱臼⑪	手根骨脱臼について
18	上肢の脱臼⑫	手指の脱臼について
19	上肢の脱臼⑬	上肢の脱臼振り返り
20	まとめ	到達度評価（頭部・顔面、上肢の脱臼に関する）



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復学Ⅵ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	5	講義
担当教員	大嶋和成			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>柔道整復学（下肢）・運動学において基礎的な知識及び臨床で必須となる身体の構造・運動・外傷・障害についての深い知識・理解の習得を目指す。</p>	
到達目標	
<p>単に語句・内容を覚えるだけでなく、他の科目と内容が繋がっていることを理解した上で、総合的な学力向上の基盤を作り、臨床現場で直面する症例に対して考えることが出来る力を養うことを目指す。</p>	
準備学習	
<p>予習として、授業計画に示された教科書の範囲を熟読する。復習として、授業内容など問題演習を行うなどの確認作業を行う。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	<p>1.全国柔道整復師学校協会監修 柔道整復理論改訂第7版 2.全国柔道整復師学校協会監修 運動学改訂第3版 3.配布資料</p>
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス・柔道整復理論①	授業内容説明・下肢骨折①
2	柔道整復理論②	下肢骨折②
3	柔道整復理論③	下肢骨折③
4	柔道整復理論④	下肢骨折④
5	柔道整復理論⑤	下肢骨折⑤
6	柔道整復理論⑥	下肢骨折⑥
7	柔道整復理論⑦	下肢骨折⑦
8	柔道整復理論⑧	下肢骨折⑧
9	柔道整復理論⑨	下肢骨折⑨
10	柔道整復理論⑩	下肢脱臼①
11	柔道整復理論⑪	下肢脱臼②
12	柔道整復理論⑫	下肢脱臼③
13	柔道整復理論⑬	下肢脱臼④
14	柔道整復理論⑭	下肢軟部組織損傷①
15	柔道整復理論⑮	下肢軟部組織損傷②
16	柔道整復理論⑯	下肢軟部組織損傷③
17	柔道整復理論⑰	下肢軟部組織損傷④
18	柔道整復理論⑱	下肢軟部組織損傷⑤
19	まとめ	柔道整復理論・下肢まとめ
20	運動学①	概説・身体運動と力学



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復学Ⅶ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	5	講義
担当教員	三野勝大			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
解剖学的・生理学的専門知識を深め、臨床において疾患の病態を把握認識し簡便に一般的用語に置き換え示すことができる。	
到達目標	
柔道整復施術適応疾患の鑑別・病態把握の評価および治療法の決定に至る確定診断能力の基盤として解剖学・生理学を臨床に即して説明できるようになる。	
準備学習	
時間外の学習では、毎回の授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」を反復する時間を個別でもうけることが望まれる。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監 生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監 解剖学 改訂第2版
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	細胞の構造と機能①	細胞の構造・活動電位 1
2	細胞の構造と機能②	細胞の構造・活動電位 2
3	細胞の構造と機能③	細胞の構造・活動電位 3
4	組織の分類と特性①	上皮組織・支持組織（結合組織）
5	組織の分類と特性②	支持組織（血液 1）
6	組織の分類と特性③	支持組織（血液 2）
7	循環器系①	心臓の構造・機能 1
8	循環器系②	心臓の構造・機能 2
9	循環器系③	動脈系
10	循環器系④	静脈系
11	呼吸器系①	呼吸器系の構造
12	呼吸器系②	換気・ガス交換
13	消化器系①	消化器系の構造（口腔～胃）
14	消化器系②	消化器系の構造（小腸～大腸）
15	消化器系③	消化器系の構造（膵臓・肝臓）
16	消化器系④	消化と吸収
17	栄養と代謝①	エネルギー代謝
18	栄養と代謝②	栄養素の代謝
19	骨の生理①	骨の構造
20	骨の生理②	骨形成と骨吸収





令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	<b>臨床柔道整復学 I</b>			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	2	講義
担当教員	米山博之			
実務経験	▼実務経験			

授業概要	
2年生3年生に続く高度な各論の基礎として理解できる。	
到達目標	
柔道整復理論編各論の項目において、判断力・外傷評価・施術法など臨床適応ができる。	
準備学習	
配布資料を読むこと。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	説明	年間の授業説明
2	関節解剖と筋神経 1	上肢関節と筋神経1
3	関節解剖と筋神経2	上肢関節と筋神経2
4	関節解剖と筋神経3	上肢関節と筋神経3
5	関節解剖と筋神経4	上肢関節と筋神経4
6	関節解剖と筋神経5	上肢関節と筋神経5
7	関節解剖と筋神経6	上肢関節と筋神経6
8	関節解剖と筋神経7	上肢関節と筋神経7
9	関節解剖と筋神経8	上肢関節と筋神経8
10	関節解剖と筋神経9	下肢関節と筋神経1
11	関節解剖と筋神経10	下肢関節と筋神経2
12	関節解剖と筋神経11	下肢関節と筋神経3
13	関節解剖と筋神経12	下肢関節と筋神経4
14	関節解剖と筋神経13	下肢関節と筋神経5
15	関節解剖と筋神経14	下肢関節と筋神経6
16	関節解剖と筋神経15	下肢関節と筋神経7
17	総括1	総復習1
18	総括2	総復習2
19	総括3	総復習3

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	吉成 有紗			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

<b>授業概要</b>
筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。 柔道整復師に必要な骨の名称、筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。
<b>到達目標</b>
骨、筋肉の描写が出来、名称を言えるようにする。 さらに筋肉は名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え、口頭でも筆記でも答えられるようにする。3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。
<b>準備学習</b>
解剖学の教科書や3Dの筋骨格系の資料を使用し、全体のイメージを捉えておく。またグループワークを取り入れ、チームワークの形成が大事となる。
<b>成績評価</b>
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	ヒューマン・アトミー・アトラスの3D画像 医歯薬出版株式会社 全国柔道整復学校教会 監修 解剖学 改定第2版 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の意義、進め方の説明 骨
2	筋の理解	筋
3	骨の名称	脊柱
4	骨の名称	肋骨
5	筋の理解	浅胸筋
6	骨の名称	肩甲骨
7	骨の名称	上腕骨
8	筋の理解	浅背筋
9	筋の理解	上肢帯の筋 1
10	筋の理解	上肢帯の筋 2
11	骨の名称	前腕骨
12	筋の理解	上腕の筋 1
13	筋の理解	上腕の筋 2
14	骨の名称	手根・手の骨
15	筋の理解	前腕の筋 1 (屈筋)
16	筋の理解	前腕の筋 2 (屈筋)
17	筋の理解	前腕の筋 3 (伸筋)
18	筋の理解	前腕の筋 4 (伸筋)
19	筋の理解	手の筋 5
20	復習	上肢骨・上肢の筋の総復習



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	中神 太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

<b>授業概要</b>
筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。 柔道整復師に必要な骨の名称、筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。
<b>到達目標</b>
骨、筋肉の描写が出来、名称を言えるようにする。 さらに筋肉は名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え、口頭でも筆記でも答えられるようにする。3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。
<b>準備学習</b>
解剖学の教科書や3Dの筋骨格系の資料を使用し、全体のイメージを捉えておく。またグループワークを取り入れ、チームワークの形成が大事となる。
<b>成績評価</b>
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	ヒューマン・アトミー・アトラスの3D画像 医歯薬出版株式会社 全国柔道整復学校教会 監修 解剖学 改定第2版 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の意義、進め方の説明 骨
2	筋の理解	筋
3	骨の名称	脊柱
4	骨の名称	肋骨
5	筋の理解	浅胸筋
6	骨の名称	肩甲骨
7	骨の名称	上腕骨
8	筋の理解	浅背筋
9	筋の理解	上肢帯の筋 1
10	筋の理解	上肢帯の筋 2
11	骨の名称	前腕骨
12	筋の理解	上腕の筋 1
13	筋の理解	上腕の筋 2
14	骨の名称	手根・手の骨
15	筋の理解	前腕の筋 1 (屈筋)
16	筋の理解	前腕の筋 2 (屈筋)
17	筋の理解	前腕の筋 3 (伸筋)
18	筋の理解	前腕の筋 4 (伸筋)
19	筋の理解	手の筋 5
20	復習	上肢骨・上肢の筋の総復習



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	5	講義
担当教員	佐々木 祐樹, 塩崎 由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>柔道整復学理論編 軟部組織損傷の頭部・体幹 (p337-349)、上肢 (p350-379)、下肢 (p380-408) を中心に発生機序から後遺症に至るまで授業を行う。 上記に関連する機能解剖・徒手検査法に加え、実技編も参照する。</p>	
到達目標	
<p>柔道整復学の軟部組織損傷について授業概要の範囲を理解し説明することができる。</p>	
準備学習	
<p>事前に教科書の読解を行い必要な前提知識の確認をしてください。授業後には教科書や配布資料の復習をするなど知識の定着に努めることを期待します。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	<p>全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 柔道整復学 実技編 改訂第2版</p>
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	股関節部の軟部組織損傷	鼠蹊部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、その他の股関節疾患
2	大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿四頭筋肉ばなれ、ハムストリングス肉ばなれ
3	膝関節部の軟部組織損傷	半月板損傷
4	膝関節部の軟部組織損傷	十字靭帯、側副靭帯損傷
5	膝関節部の軟部組織損傷	半月板、靭帯損傷の徒手検査法
6	膝関節部の軟部組織損傷	発育期の膝関節障害 (オスグッド・シュラッター病・ジャンパー膝・分裂膝蓋骨)
7	膝関節部の軟部組織損傷	腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節症、関節包・滑液包の異常、神経障害
8	下腿部の軟部組織損傷	アキレス腱炎、周因炎、断裂、下腿三頭筋肉ばなれ、シンスプリント
9	足関節部の軟部組織損傷	外側、内側靭帯損傷、脛腓靭帯損傷、二分靭帯損傷
10	足関節部の軟部組織損傷	腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫、三角骨障害
11	足部の軟部組織損傷	セーバー病、第1・2ケラー病、アキレス腱滑液包炎、有痛性外脛骨
12	足部の軟部組織損傷	踵骨棘、足底腱膜炎、外反母趾、強剛母趾、種子骨障害、モートン病、扁平足障害
13	頭部の軟部組織損傷	頭部・顔面の打撲、顎関節症
14	頸部の軟部組織損傷	外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群、寝違え
15	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸・背部打撲
16	腰・背部の軟部組織損傷	筋・関節性・靭帯性の疾患
17	徒手検査法	体幹および下肢の徒手検査法
18	まとめ	効果測定
19	まとめ	効果測定の解説

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	5	講義
担当教員	塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>柔道整復学理論編 軟部組織損傷の頭部・体幹 (p337-349)、上肢 (p350-379)、下肢 (p380-408) を中心に発生機序から後遺症に至るまで授業を行う。 上記に関連する機能解剖・徒手検査法に加え、実技編も参照する。</p>	
到達目標	
<p>柔道整復学の軟部組織損傷について授業概要の範囲を理解し説明することができる。</p>	
準備学習	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法</p>	
成績評価	

使用テキスト	<p>全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 柔道整復学 実技編 改訂第2版</p>
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	肩関節周囲の損傷	腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷
2	肩関節周囲の損傷	肩峰下滑液包炎 肩関節周囲炎
3	肘関節周囲の損傷	内側側副靭帯損傷(野球肘) 外側側副靭帯損傷
4	肘関節周囲の損傷	上腕骨外側上顆炎(テニス肘)
5	肘関節周囲の損傷	上腕骨内側上顆炎(ゴルフ肘)
6	肩関節・肘関節周囲の損傷	復習
7	前腕・手関節の損傷	TFCC損傷(三角線維軟骨複合体損傷) 手関節捻挫
8	前腕・手関節の損傷	屈筋腱・伸筋腱損傷(指の腱断裂、腱鞘炎)
9	前腕・手関節の損傷	ド・ケルバン病・キーンバック病
10	前腕・手関節の損傷	マレットフィンガー・ボタン穴変形・スワンネック変形
11	前腕・手関節の損傷	復習
12	神経障害	橈骨神経・正中神経・尺骨神経
13	画像	X線・CT
14	画像	MRI・超音波(エコー)
15	画像	復習
16	問題演習	総復習
17	問題演習	総復習
18	問題演習	総復習
19	問題演習	総復習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		臨床柔道整復学Ⅴ		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	5	講義
担当教員	佐々木祐樹			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
柔道整復師国家試験出題基準に基づき、上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、発生機序・病態・臨床症状・合併症・整復固定の原則を体系的に学び、国家試験合格レベルの知識習得を目指す座学科目とする。
到達目標
肩・肘・前腕・手の代表的骨折・脱臼・軟部組織損傷の名称・受傷機転・臨床症状・検査所見・合併症を説明でき、国家試験の過去問題および柔道整復学総合問題において上肢外傷分野で合格基準の得点を獲得できる。
準備学習
教科書の上肢外傷該当範囲を事前に通読し、骨・靭帯などの解剖を復習する。授業後は対応する国家試験過去問題・重要問題を解き、誤答の原因を教科書とノートで確認して知識を定着させる。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	骨折 各論	鎖骨・肩甲骨・上腕骨近位部の骨折
2	骨折 各論	上腕骨骨幹部・遠位部の骨折
3	骨折 各論	前腕近位部・骨幹部・遠位部の骨折
4	骨折 各論	効果測定
5	骨折 各論	手根骨・中手骨の骨折
6	骨折 各論	指骨の骨折
7	脱臼 各論	胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼
8	脱臼 各論	肘関節・手関節の脱臼
9	脱臼 各論	CM・MP・PIP・DIP関節の脱臼
10	軟部組織損傷 各論	肩関節部の軟部組織損傷①
11	軟部組織損傷 各論	肩関節部の軟部組織損傷②
12	軟部組織損傷 各論	肘関節部の軟部組織損傷
13	軟部組織損傷 各論	前腕部の軟部組織損傷
14	軟部組織損傷 各論	手関節部の軟部組織損傷
15	軟部組織損傷 各論	上肢の神経障害
16	軟部組織損傷 各論	手部・指部の軟部組織損傷
17	問題演習	問題演習
18	問題演習	問題演習
19	問題演習	効果測定

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		臨床柔道整復学Ⅴ		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	5	講義
担当教員	塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
柔道整復師国家試験出題基準に基づき、上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について、発生機序・病態・臨床症状・合併症・整復固定の原則を体系的に学び、国家試験合格レベルの知識習得を目指す座学科目とする。
到達目標
肩・肘・前腕・手の代表的骨折・脱臼・軟部組織損傷の名称・受傷機転・臨床症状・検査所見・合併症を説明でき、国家試験の過去問題および柔道整復学総合問題において上肢外傷分野で合格基準の得点を獲得できる。
準備学習
教科書の上肢外傷該当範囲を事前に通読し、骨・靭帯などの解剖を復習する。授業後は対応する国家試験過去問題・重要問題を解き、誤答の原因を教科書とノートで確認して知識を定着させる。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	柔道整復理論総論①	柔道整復師の業務範囲、運動器損傷の診察、説明と同意（インフォームド・コンセント）、施術前確認
2	柔道整復理論総論②	骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎、評価方法、施術録の記載
3	柔道整復理論総論③	初期施術、後療法、施術終了の判断、患者安全とリスク管理
4	包帯法・固定法総論	包帯法の基本、固定材料、固定の原則、高齢者・競技者の外傷予防
5	鎖骨骨折①	定型的鎖骨骨折の発生機序、症状、診察、整復法
6	鎖骨骨折②	定型的鎖骨骨折の固定法、固定肢位、注意点、後療法
7	上腕骨骨折①	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復、固定法
8	上腕骨骨折②	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定、神経損傷との関連
9	前腕骨折	コーレス骨折の診察、整復、固定法、第5中手骨頸部骨折の固定
10	胸郭損傷	肋骨骨折の診察、固定法、呼吸障害との関連
11	肩関節脱臼①	肩関節上方脱臼の診察、整復、固定法
12	肩関節脱臼②	肩関節烏口下脱臼の診察、整復、固定法
13	肘関節損傷	肘関節後方脱臼の診察、整復、固定法、肘内障
14	手指・肩部軟部損傷	示指PIP関節背側脱臼、肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷
15	大腿・膝関節損傷①	大腿部打撲・肉ばなれ、ハムストリングス損傷、膝関節側副靭帯損傷
16	大腿・膝関節損傷②	膝関節十字靭帯損傷、半月板損傷、固定法
17	下腿・足関節損傷	下腿三頭筋肉ばなれ、アキレス腱断裂、足関節外側靭帯損傷
18	足関節固定・下肢骨折	足関節外側靭帯損傷の固定、下腿骨骨幹部骨折の固定
19	総合演習	各損傷の鑑別、診察から整復・固定までの総合演習、国家試験問題演習

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復学Ⅵ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	5	講義
担当教員	吉成有紗, 塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>教科書を基本とし、必要に応じて参考書等を用いながら柔道整復師が必要とする基礎的疾患の理解を深める。また基礎的疾患の理解を得るために、柔道整復師として必要な病理学分野、生理学分野の知識を習得する。また柔道整復師を取り巻く環境としての公衆衛生を学び、知識を習得する。</p>	
到達目標	
<p>昨今、柔道整復では跳躍した施術について問題視されており基礎的疾患の理解が柔道整復師にも求められる。本科目では基礎となる病因について外傷とは全く異なることを注目し、柔道整復における適応疾患について見定めることが出来るようになる。</p>	
準備学習	
<p>授業内で講義した内容とともに柔道整復師に必要な基礎的疾患の理解や機能解剖、国民の動向、公害の理解なども含め自宅で繰り返し学習することを推奨する。また、学んだ内容を他人に指導することで理解を深める。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 改訂第3版 生理学 改定第4版
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	総論：生理学の基礎と概観	生理学の基本概念、ホメオスタシス、細胞の構造と機能
2	筋の生理学①：筋の構造と機能	筋細胞の構造、筋収縮のメカニズム、アクチン・ミオシンの働き
3	□ 筋の生理学②：エネルギー代謝と筋適	ATP産生機構（解糖系・クレブス回路・電子伝達系）、トレーニングによる筋適応
4	神経の生理学①：神経細胞の構造と電気的興奮	ニューロンの構造、活動電位の発生と伝導、シナプス伝達
5	□ 神経の生理学②：自律神経と中枢神経	交感・副交感神経の働き、大脳・小脳・脊髄の機能
6	運動の生理学①：運動制御と神経筋連関	筋紡錘・ゴルジ腱器官の役割、姿勢制御、運動学習
7	運動の生理学②：運動負荷と生理的適応	運動時の循環・呼吸応答、疲労の生理学
8	感覚の生理学①：体性感覚と特殊感覚の基礎	触覚・温痛覚・視覚・聴覚・平衡感覚のメカニズム
9	□ 感覚の生理学②：感覚と運動の統合機	感覚情報の処理と運動制御、脳の可塑性とリハビリテーション
10	内分泌の生理学①：ホルモンの種類と作用	内分泌系の基本概念、視床下部-下垂体-標的臓器の調節
11	内分泌の生理学②：代謝とホルモン調節	各ホルモンの作用、成長ホルモンと運動
12	□ 生殖の生理学：性ホルモンと生殖機能	男性・女性の生殖機能、ホルモンによる調節、妊娠と分娩の生理
13	血液の生理学	体液中の血液について
14	骨の生理学	骨の構造や成長のメカニズム、カルシウム代謝について
15	循環の生理学	物質の運搬、代謝産物の取り除き、内部環境のホメオスタシスについて
16	循環の生理学	心周期について
17	呼吸	外呼吸の仕組みについて
18	尿の生成	腎臓の構造と機能について
19	尿の生成	腎臓がどのように生体の恒常性を維持するかについて
20	栄養と代謝	栄養源を摂取して代謝し、生命活動を営むしくみについて



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復学Ⅶ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	5	講義
担当教員	諸星亮,塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
座学での講義を主体とする。教科書および配布するプリントを使用し、ノートもしくはプリントにまとめ、学習成果は国家試験過去問題集にて確認する。柔道整復師として臨床現場で必要となる知識を学ぶ。	
到達目標	
臨床現場で、外傷だけでなく様々な疾患にも気づき、アプローチができるような知識と、柔道整復師となるうえで必要な専門的知識を習得する。	
準備学習	
当該範囲の事前学習と授業後の教科書、配布したプリントによる反復学習。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	柔道整復学理論編 南江堂 柔道整復学実技編 南江堂 一般臨床医学 南江堂 公衆衛生学 南江堂 外科学 南江堂
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
2	医療面接と身体診察	医療面接と身体診察について
3	視診、触診と治療計画、生命徴候	視診と触診治療計画、生命徴候について
4	体型・姿勢と発生機序の関連性	体型・姿勢と発生機序の関連性について
5	意識状態と頭部外傷	意識状態と頭部外傷（頭蓋骨折）について
6	骨折の後遺症と異常運動	骨折の後遺症と異常運動について
7	内分泌疾患が骨折の治療に及ぼせる影響	内分泌疾患が骨折の治療に及ぼせる影響について
8	手根管症候群と透析の関連性	手根管症候群と透析の関連性について
9	骨折治療過程の血液状態	骨折治療過程の血液状態について
10	腫瘍に関連する疾患と柔道整復師の判断	腫瘍に関連する疾患柔道整復師の判断について
11	代謝と外傷に関わる管理指導	代謝と外傷に関わる管理指導について
12	外傷性・非外傷性背部痛と臍臓との関連性	外傷性・非外傷性背部痛と臍臓との関連性について
13	胸骨骨折時の呼吸器損傷の合併症	胸骨骨折時の呼吸器損傷の合併症について
14	既往歴がある患者への管理指導（危険因子の指摘）	既往歴がある患者への管理指導（危険因子の指摘）について
15	外傷性と非外傷性の胸椎の違い（骨折・循環器・軟部組織損傷）	外傷性と非外傷性の胸痛の違い（骨折・循環器・軟部組織損傷）について
16	外傷時に発生する腹部損傷と合併①（胃・十二指腸）	外傷時に発生する腹部損傷と合併（胃・十二指腸）について
17	外傷時に発生する腹部損傷と合併②（肝臓・大腸）	外傷時に発生する腹部損傷と合併（肝臓・大腸）について
18	外傷時に発生する腹部損傷と合併③（腎臓・肺）	外傷時に発生する腹部損傷との合併（腎臓・肺）について
19	骨折時の発熱と疾患による発熱の鑑別と判断	骨折時の発熱と疾患による発熱の鑑別と判断について
20	神経疾患と骨折の合併に対する後療法	神経疾患と骨折の合併に対する後療法について





令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	<b>柔道整復術適応の臨床的判定</b>			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期	2	講義
担当教員	塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>本授業では、柔道整復師に求められる「臨床的判定能力」の習得を目的とし、外傷の評価・鑑別・対応判断に関する知識と臨床推論力を体系的に学習する。</p> <p>骨折・脱臼・軟部組織損傷を中心に、受傷機転、視診・触診、機能障害、疼痛の特徴などの情報を統合し、適切な判断を導くプロセスを問題演習形式で習得する。</p>	
到達目標	
<p>外傷に関する臨床所見や受傷機転を統合的に解釈し、骨折・脱臼・軟部損傷の鑑別ならびに整復・固定・医療機関紹介の適否を適切に判断できる。</p>	
準備学習	
<p>授業前に教科書および国家試験過去問題の該当範囲を確認し重要事項を整理しておく。授業後は模試および問題演習の解説を基に誤答の原因を教科書とノートで確認し、過去問題を繰り返し解いて知識の定着と解答力の向上を図る。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p> <p>定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	その都度配布する。
--------	-----------

授業計画		
回数	単元	内容
1	総合問題演習	外傷の鑑別（骨折・脱臼・軟部損傷の判定）
2	総合問題演習	受傷機転からの臨床推論（力学的分析）
3	総合問題演習	視診・触診による損傷部位の特定
4	総合問題演習	疼痛部位と機能障害からの鑑別診断
5	総合問題演習	骨折の臨床判定（特徴・合併症）
6	総合問題演習	脱臼の臨床判定と整復適応
7	総合問題演習	軟部組織損傷の重症度評価
8	総合問題演習	神経・血管損傷の評価とリスク判断
9	総合問題演習	小児外傷の特徴と判定
10	総合問題演習	高齢者外傷の特徴と判定
11	総合問題演習	上肢外傷の総合的判定
12	総合問題演習	下肢外傷の総合的判定
13	総合問題演習	脊柱・体幹部外傷の判定
14	総合問題演習	スポーツ外傷の臨床判断
15	総合問題演習	慢性障害と急性外傷の鑑別
16	総合問題演習	画像所見（X線）と臨床所見の統合
17	総合問題演習	応急処置・固定の適応判断
18	総合問題演習	医療機関紹介の判断基準
19	総合問題演習	症例ベース総合演習①（初期評価～判定）
20	総合問題演習	症例ベース総合演習②（総合臨床推論）



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		総合演習Ⅱ		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	1	講義
担当教員	吉成有紗			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
柔道整復師の基礎となる柔道整復学理論編の補足、臨床現場における柔道整復師の役割の理解、また解剖学、生理学における基礎知識の確認を含めた学習を行う。
到達目標
柔道整復学理論編、実技、解剖学、生理学の基礎を理解し、臨床現場で活かせる知識を身につけるようにする。
準備学習
1 学年で学んだ内容の復習を徹底し、理解できていない箇所の洗い出しをし、自分の苦手分野を把握することを推奨する。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 1
2	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 2
3	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 3
4	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 4
5	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 5
6	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 6
7	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 7
8	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 8
9	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 9
10	柔道整復師の理解	柔道整復師が臨床現場で行う施術の理解 10
11	基礎学習	解剖学、生理学の理解 1
12	基礎学習	解剖学、生理学の理解 2
13	基礎学習	解剖学、生理学の理解 3
14	基礎学習	解剖学、生理学の理解 4
15	基礎学習	解剖学、生理学の理解 5
16	基礎学習	解剖学、生理学の理解 6
17	基礎学習	解剖学、生理学の理解 7
18	基礎学習	解剖学、生理学の理解 8
19	総復習	国家試験に必要な知識の確認 1
20	総復習	国家試験に必要な知識の確認 2





令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		臨床実習事前指導		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	1	講義
担当教員	水村麻輝・笹熊彩花			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>柔道整復の基礎的な技術や知識を身につけ実行できるようになることを目的とする。また、実習先での立ち振る舞いについて学習し習得することを目的とする。</p>	
到達目標	
<p>臨床実習において接骨院での立ち振る舞いや、骨折脱臼の基本的な知識や筋骨格系、解剖学や生理学が現場で活かせるように身につけているかを評価する。</p>	
準備学習	
<p>実習先はもちろん接骨院について、積極的に自ら調べ知ろうとする行動を心がける。また、実習先では1年次に習得した実技の技術や知識について確認されてもいいように自己学習に励むことを推奨する。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	<p>全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版</p>
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	臨床実習の意義
2	プロフィール作成	自己分析
3	プロフィール作成	自己分析結果の文章化
4	プロフィール作成	学生プロフィールの作成 1
5	プロフィール作成	学生プロフィールの作成 2
6	プロフィール作成	学生プロフィールの作成 3
7	プロフィール作成	学生プロフィールの作成 4
8	プロフィール作成	学生プロフィールの完成
9	施術所の理解	実習先の選択と企業学習
10	施術所の理解	実習先の確定、実習の流れ確認
11	実習記録の作成	実習ノートの書き方 1
12	実習記録の作成	実習ノートの書き方 2
13	実習記録の作成	実習ノートの書き方、提出方法 1
14	実習記録の作成	実習ノートの書き方、提出方法 2
15	実習の流れ確認	実習の実施方法の確認、ロールプレイ
16	実習の流れ確認	実習指導者へのインタビュー練習
17	実習の流れ確認	実習の評価について
18	実習事前知識の確認	実習における必要知識の確認 1
19	実習事前知識の確認	実習における必要知識の確認 2

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復実技1			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	2	演習
担当教員	佐々木祐樹			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
教科書に合わせて競技者に対する外傷予防テーピングの理解、認定実技審査で問われるテーピングの内容の習得を行う。関節、筋についての構造を把握した上でより効果的なテーピングを施すことができるよう技術の向上を図る。教科書のみならず、参考書を引用し様々なニーズに対応できるテーピング法を学ぶ。	
到達目標	
教科書・配布資料を中心にスポーツテーピングの方法、実際について理解できるようにする。テーピングの効果、効用を理解し、競技や状況に応じて適切なテーピングを施すことができるようにする。	
準備学習	
テーピングの施行においては該当部位の解剖学的基礎知識の理解が必要不可欠であるため、運動器系の予習を行っていただきたい。また、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学 改訂第2版
--------	-----------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	テーピングの理解・施術者としての振る舞い・患者と接する際の諸注意
2	テープの取り扱いについて	種々のテーピングの切り方・貼り方
3	テープの取り扱いについて	アンダーラップの切り方・巻き方
4	施行部位の理解	足関節の機能解剖および触診
5	足関節テーピング実技	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング法（アンダーラップからスターアップまで）
6	足関節テーピング実技	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング法（ホースシューからヒールロックまで）
7	足関節テーピング実技	通し練習（右足）
8	足関節テーピング実技	通し練習（左足）
9	足関節テーピング実技	練習①
10	足関節テーピング実技	練習②
11	まとめ	効果測定①
12	まとめ	効果測定②
13	施行部位の理解	膝関節の機能解剖・触診
14	膝関節テーピング実技	膝内側側副靭帯損傷に対するテーピング法（Xテープ）
15	膝関節テーピング実技	膝内側側副靭帯損傷に対するテーピング法（Iテープ）
16	テーピング実技	足関節および膝関節テーピングの練習
17	まとめ	効果測定③（足関節外側靭帯損傷に対するテーピング法）
18	まとめ	効果測定④（足関節外側靭帯損傷に対するテーピング法）
19	テーピング実技	足関節テーピングの応用①
20	テーピング実技	足関節テーピングの応用②



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	基礎柔道整復実技2			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	2	演習
担当教員	笹熊彩花			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
固定の目的を踏まえた上で、関節固定の基礎を習得する。固定する関節の機能解剖を理解することで、より効果的な包帯固定を施すことができるように図る。
到達目標
包帯固定学による固定の目的と意義を踏まえて、基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法の他、三角巾、固定材料の種類について理解し、施すことができるようにする。
準備学習
解剖学的基礎知識の理解が必要不可欠であるため、運動器系の予習を行っていただきたい。また、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研磨に務めていただきたい。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	全国柔道整復協会監修 包帯固定学 改訂第2版
--------	---------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	包帯の名前・列数の理解、取扱いの基礎
2	包帯の巻き方と注意事項	固定の目的、順巻き・逆巻き・注意事項、巻軸帯の巻き戻し
3	基本包帯法の理解	基本包帯法の種類について
4	基本包帯法の実践	前腕（折転帯）
5	基本包帯法の実践	下腿（折転帯）
6	施行部位の理解	手の機能解剖
7	基本包帯法の実践（手指）	母指・手指（麦穂帯）＋手指（折り返し被覆）
8	基本包帯法の実践（手関節・前腕）	手関節（麦穂帯）～前腕（折転帯）
9	前半総括①	効果測定①（手指・前腕）
10	前半総括②	効果測定②（手指・前腕）
11	固定材料の理解	固定材料の種類＋三角巾
12	施行部位の理解（肘関節）	肘関節の機能解剖
13	基本包帯法の実践（肘関節）	肘関節（集合・離開 亀甲帯）①
14	基本包帯法の実践（肘関節）	肘関節（集合・離開 亀甲帯）②
15	基本包帯法の実践（肩関節）	肩関節（上行麦穂帯）
16	基本包帯法の実践（肩関節）	肩関節（下行麦穂帯）
17	まとめ	復習
18	まとめ	復習
19	前半総括③	効果測定③（肘関節・肩関節）
20	前半総括④	効果測定④（肘関節・肩関節）



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復実技1			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	2	演習
担当教員	黒岩亮太			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>基本包帯法を基として、硬性材料を使用し応用的な固定法を学ぶ。 また、上肢を中心とした各疾患ごとに座学を交えながら徒手検査法やエコー検査法、固定の必要性や意義を理解する。</p>	
到達目標	
<p>基本包帯法を組み合わせ各部位に合わせた応用的な固定を習得する。 疾患に対する座学と実技をリンクさせる。 様々な硬性固定材料の扱いに慣れる。 超音波画像診断装置の基本的な扱いと画像読影を学ぶ。</p>	
準備学習	
<p>基本包帯法や部位別の包帯法は常に練習を重ねること。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	科目概要の説明・基本包帯法の復習
2	基本包帯法	基本包帯法の復習
3	弾性包帯	エラスコットを用いた部位別の包帯法
4	硬性固定の種類と作成	ブライTONの基本的な取り扱いと使用方法
5	硬性固定の種類と作成	オルフィットの基本的な取り扱いと使用方法
6	肩関節前方脱臼	硬性固定の作成と巻き方
7	肩関節前方脱臼	外旋位固定の意義と装具の装着方法
8	肩関節前方脱臼	作成した固定の練習
9	上腕骨骨幹部骨折	U字シーネ作成
10	鎖骨骨折	8字帯とデゾー包帯法
11	ギプス固定	キャストライトの使用方法和前腕部の巻き方
12	ギプス固定	サムスパイカギプスの巻き方
13	ギプス固定	キャストを用いたシュガートング固定
14	第2指PIP関節脱臼	固定の作成方法
15	第2指PIP関節脱臼	技術練習
16	第2指PIP関節脱臼	技術練習
17	前期の復習	定期試験に向けた練習
18	定期試験	定期試験
19	定期試験	定期試験
20	前期のまとめ	



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復実技2			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	2	演習
担当教員	黒岩亮太			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>基本包帯法を基として、硬性材料を使用し応用的な固定法を学ぶ。                  また、上肢を中心とした各疾患ごとに座学を交えながら徒手検査法やエコー検査法、固定の必要性や意義を理解する。</p>	
到達目標	
<p>基本包帯法を組み合わせ各部位に合わせた応用的な固定を習得する。                  疾患に対する座学と実技をリンクさせる。                  様々な硬性固定材料の扱いに慣れる。                  超音波画像診断装置の基本的な扱いと画像読影を学ぶ。</p>	
準備学習	
<p>基本包帯法や部位別の包帯法は常に練習を重ねること。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。                  定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	科目概要の説明・基本包帯法の復習
2	基本包帯法	基本包帯法の復習
3	弾性包帯	エラスコットを用いた部位別の包帯法
4	硬性固定の種類と作成	ブライトンを用いたU字固定
5	硬性固定の種類と作成	オルフィットを用いたL固定
6	足関節捻挫	座学
7	足関節捻挫	エコー操作と画像読影
8	足関節捻挫	ギブスシーネ固定
9	足関節捻挫	ギブス固定
10	足関節捻挫	ギブス固定
11	中足骨の骨折 (Jones骨折)	座学と固定作成
12	中足骨の骨折 (Jones骨折)	作成した固定の練習
13	中足骨の骨折 (Jones骨折)	作成した固定の練習
14	足趾の骨折	固定の作成
15	足趾の骨折	技術練習
16	足趾の骨折	技術練習
17	前期の復習	定期試験に向けた練習
18	定期試験	定期試験
19	定期試験	定期試験
20	前期のまとめ	



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復実技3			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	2	演習
担当教員	岩井一歩			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>11月に実施される認定実技試験にむけ1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの診察法、整復法、検査法などの修得を目指す。</p> <p>□</p>	
到達目標	
<p>模擬患者に対し、上肢・下肢・体幹の外傷を発生機序からの推測や自ら施す診察法や整復法を基に臨床的な判断ができる。□</p>	
準備学習	
<p>授業内で行う実技は、国家試験の座学の出題基準にも含まれているため、実技の反復練習はもちろんであるが国家試験対策も各々進めていただきたい。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 南江堂 柔道整復学・実技編□
--------	---------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	年間の授業説明
2	診察・整復 1	鎖骨定型的骨折
3	診察・整復 2	上腕骨外科頸骨折
4	診察・整復 3	コーレス骨折
5	診察・整復 4	肩鎖関節上方脱臼
6	診察・整復 5	肩関節前方烏口下脱臼
7	診察・整復 6	肘関節後方脱臼
8	診察・整復 7	肘内障
9	診察・整復 8	肩腱板損傷
10	診察・整復9	上腕二頭筋長頭腱損傷
11	診察・整復10	ハムストリングス損傷
12	診察・整復11	大腿四頭筋打撲
13	診察・整復12	膝関節側副靭帯損傷
14	診察・整復13	膝関節十字靭帯損傷
15	診察・整復14	膝関節半月板損傷
16	診察・整復15	下腿三頭筋損傷
17	診察・整復16	足関節外側靭帯損傷
18	診察・整復17	今までの復習
19	診察・整復18	今までの復習
20	診察・整復19	今までの復習



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	臨床柔道整復実技4			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	2	演習
担当教員	岩井一歩			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>11月に実施される認定実技試験にむけ1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの固定法、衛生材料などの修得を目指す。</p> <p>□</p>	
到達目標	
<p>模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断をもとに最適な固定法を行うことができる。□</p>	
準備学習	
<p>授業内で行う実技は、国家試験の座学の出題基準にも含まれているため、実技の反復練習はもちろんであるが国家試験対策も各々進めていただきたい。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p> <p>定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 南江堂 柔道整復学・実技編□
--------	---------------------------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	年間の授業説明
2	固定 1	鎖骨定型的骨折
3	固定 2	上腕骨骨幹部骨折
4	固定 3	コーレス骨折
5	固定 4	第5中手骨頸部骨折
6	固定 5	下腿骨骨幹部骨折
7	固定 6	肋骨骨折
8	固定 7	肩鎖関節上方脱臼
9	固定 8	肩関節前方脱臼
10	固定 9	肘関節後方脱臼
11	固定 1 0	手第2指PIP関節背側脱臼
12	固定 1 1	アキレス腱断裂
13	固定 1 2	足関節外側靭帯損傷（装具固定）
14	固定 1 3	膝関節内側靭帯損傷（Xサポート）
15	固定 1 4	足関節外側靭帯損傷（バスケットウィーブ固定）
16	固定 1 5	足関節外側靭帯損傷（フィギュアイト固定）
17	固定 1 6	今までの復習
18	固定 1 7	今までの復習
19	固定 1 8	今までの復習
20	固定 1 9	今までの復習



令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	<b>臨床柔道整復実技5</b>			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期,後期	2	演習
担当教員	米山博之			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、脱臼・骨折に対する上肢・下肢・体幹の対応法として臨症的な判断ができる。	
到達目標	
柔道整復理論編各論の項目において、判断力・外傷評価・施術法など臨床適応ができる。	
準備学習	
配布資料を読むこと。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。	

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	説明	年間の授業説明
2	実技1	胸鎖関節前方脱臼の診察と整復
3	実技2	胸鎖関節前方脱臼の固定法（スグレ副子を使用）
4	実技3	肩鎖関節上方脱臼の診察と整復
5	実技4	肩鎖関節上方脱臼の固定法（ストックネット包帯を使用）
6	実技5	肩関節後方脱臼の診察と整復
7	実技6	肩関節後方脱臼の診察との誤診を防ぐ観察
8	実技7	肩関節関節窩下脱臼の診察と整復
9	実技8	肩関節関節窩脱臼の診察と整復
10	実技9	肘内障の特殊型（年長児・極年少児）
11	実技10	肘内障の特殊型（整復不明の場合）
12	実技11	拇指MP関節背側脱臼の診察と整復
13	実技12	拇指MP関節背側脱臼の診察と整復（掌側板嵌入例）
14	実技13	拇指MP関節背側脱臼の固定（アルフェンスを使用）
15	実技14	遠位橈尺関節脱臼の診察と整復
16	実技15	遠位橈尺関節脱臼の固定（ギブスを使用）
17	実技16	膝蓋骨外側脱臼の診察と整復
18	実技17	膝蓋骨外側脱臼の固定法（クラメル副子・厚紙を使用）
19	実技18	母趾IP関節背側脱臼の診察と整復
20	実技19	母趾IP関節背側脱臼の固定法（アルフェンスを使用）





令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名		高齢者外傷予防		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期,後期	1	講義
担当教員	鈴木忠慶			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要	
<p>高齢者の身体的特徴・変化を踏まえた環境（心身のほか社会・保険など）を理解し、予防として高齢者の回復のみを目的とするのではなく、維持増進のに寄与できる視座と知識を養う。</p>	
到達目標	
<p>高齢者の身体的特徴・変化を理解と我が国における高齢者の介護保険制度について理解する事ができる。高齢者の実情から具体的な維持増進プログラムを考案し予防における評価を実施することができる。</p>	
準備学習	
<p>定期試験は「試験資料」のみから出題されます。高齢者の身体感を通じまだ学習していない領域の専門用語について触れることとなります。AI等を利用し問題発見・解決能力を養いましょう。</p>	
成績評価	
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。</p>	

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復師と機能訓練指導 全国柔道整復学校協会監修 生理学
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	自己紹介・オンデマンド授業の受講方法および出席について
2	細胞の加齢現象	細胞の老化・細胞内小器官と水分の変化を理解する。
3	高齢者の生理的特徴1	神経系の変化
4	高齢者の生理的特徴2	運動器系の変化
5	高齢者の生理的特徴3	感覚器系の変化
6	高齢者の生理的特徴4	循環器系の変化
7	高齢者の生理的特徴5	呼吸器系の変化
8	高齢者の生理的特徴6	消化器系の変化
9	高齢者の生理的特徴7	皮膚の変化
10	高齢者に多い疾患・障害 1	認知症と骨粗鬆症
11	高齢者に多い疾患・障害 2	転倒とフレイル
12	運動と加齢	歩行機能
13	運動と加齢	平衡機能
14	運動と加齢	反応
15	リハビリテーションと機能訓練	機能訓練の枠組みを知る。
16	介護予防と介護保険	介護予防の実際と介護保険を理解する。

令和8年度 シラバス

アルファ医療福祉美容専門学校 <柔道整復学科>

科目名	競技者外傷予防			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	1	講義
担当教員	佐々木祐樹			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>本授業では、理論に基づき種々の分析手法・エクササイズ・トレーニング法を実践し、様々な状況を想定したディスカッションを繰り返すことで、適切に外傷予防プログラムの立案および指導ができるようになることを目的とする。</p>
到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、競技者の身体特性・運動特性を正確に把握することができる。</li> <li>2、競技毎の特性を理解し説明することができる。</li> <li>3、エクササイズ・トレーニングの目的と方法を理解し正しく実践することができる。</li> <li>4、目的に応じたエクササイズ・トレーニング計画の立案および運動処方をする事ができる。</li> </ol>
準備学習
<p>授業で学んだことを繰り返し復習し、自らの体を使って理解できるように学習する。また、学んだエクササイズやトレーニング方法などを他者に指導し、自己学習していくことを推奨する。</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)</p>

使用テキスト	アスレティックトレーニング学 アスリート支援に必要なクリニカル・エビデンス (文光堂)
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	運動生理学	エネルギー代謝、運動と骨・筋
2	スポーツ現場における救急処置法	運搬法、RICE処置、AED、CPR
3	メチカルチェック・フィジカルチェック	ROM、タイトネスト、他の計測
4	動作の観察と分析	立位姿勢および歩行の評価
5	パフォーマンステスト	ヘキサゴンドリル、プロアジリティテスト他
6	スタティックストレッチング	全身のスタティックストレッチ法 理論と実践
7	スポーツマッサージ	滑剤を用いた大腿部・下腿部のマッサージ法
8	モビリティエクササイズ	全身のモビリティエクササイズ 理論と実践
9	部位別トレーニング	全身のレジスタンストレーニング 理論と実践
10	バランス・スタビリティトレーニング	状況に応じたバランススタビリティトレーニングの実践とメニューの立案
11	スピード・アジリティトレーニング	状況に応じたスピードトレーニングの実践とメニューの立案
12	競技特性の理解	競技毎の特性・特徴の調べ学習
13	まとめ	課題発表 (競技特性について発表)
14	外傷予防法の立案	競技毎の外傷予防法の立案および指導法
15	外傷予防法の立案	競技毎の外傷予防法の立案および指導法
16	まとめ	効果測定
17	まとめ	効果測定の確認
18	スポーツテーピング	スポーツ現場におけるテーピング法







